



# 慶雲弘篤居士



ゆづりたる雲のごとくとばわれず、広々とした空に篤き心満する。

『戒名』 慶雲けいうん 道号どうごう 弘篤こうとく 法号ほうごう 居士こじ 位号いごう



水 篤あつし

昭和 年 8 月 23 日生 練馬区 出身  
平成 15 年 8 月 日 歿 行年 歳 文恵の夫

**慶** 〓 よろこび 明るく力強い気持ちになる めでたいと祝う さいわい  
よいこと ああ（発語）の義

**雲** 〓 高く遙かなもの 多く集めるもの きわめて高い場所、地位

**弘** 〓 ひろし 広める 大いなり 大いにする 弘法大師（空海）の一字

**篤** 〓 あつし かない もっぱらである 純一である 誠実である 念入りである  
とつくりと 手厚くする 病気が重い

《解字》 会意兼形声。竹は、周囲を欠けめなくとりまいたたけ。篤は「馬と音符竹」。全身に欠けめのない馬のことをいい、ゆきとどいた意となる。



**通夜** 魂を呼び戻す 悪霊から身体を守る 死を確認する  
**葬儀** 導師だうし 〓 引導（道を示す）  
故人こじん 〓 魂の浄化  
参列者さんれつしゃ 〓 心のいやし

**初七日忌** 黄泉よみの旅におもむく日  
**七七忌** 行き先の定まる日



梅松山

円泉寺えんせんじ

埼玉県飯能市平松三七六 電話〇四二（九七三）五七二六

<http://www.ensenji.or.jp>



# 冨月妙清大姉



尊き仏の悟りのごとく冨えわたる。

『戒名』 冨月<sup>こげつ</sup>道号<sup>どうごう</sup> 妙清<sup>みよせ</sup>法号<sup>ほうごう</sup> 大姉<sup>だいし</sup>位号<sup>いごう</sup>



## サエ

昭和 年 5月 20日生  
平成 年 月 30日歿  
いわき市出身 旧姓 田  
行年 歳  
男の妻

冨<sup>こ</sup> 意味<sup>い</sup> さむい さえる 色や音がすんでいる

《動詞・形容詞》こおる(こほる)。氷がかたくいてつく。こごえるように冷たい。

《同義語

冨。

《日本語での特別な意味》さえる(さゆ)。氷のように澄みわたる。「刀の冨え」

《解字》

形声。「冨」+音符「冨」。

月<sup>つき</sup> 仏教では、悟りの心を満月にたとえて用いる

古い時代には、夜の道を照らしてくれるものであり、また、日を数えるのにも大きな役をなした。そのやわらかな光は、人の心をなぐさめるものとして慕われた。

妙<sup>たえ</sup> たえ 神髓 言うに言われぬほどすぐれている わかしたおやか

しなやか 無比

清<sup>きよし</sup> きよし 水が澄んでいる けがれない 静か 涼しい あざやか

簡素でけじめがあるさま 明らか すがすがしい 清める のりもの



通<sup>とほ</sup> 夜 魂を呼び戻す 悪霊から身体を守る 死を確認する

葬<sup>まう</sup> 儀 導師<sup>だうし</sup> 引導(道を示す)

故人<sup>こじん</sup> 魂の浄化

参列者<sup>さんれつしゃ</sup> 心のいやし

初七日忌<sup>しよちにちい</sup> 黄泉<sup>よみ</sup>の旅におもむく日

七七忌<sup>しちしちい</sup> 行き先の定まる日



梅松山 円泉寺

埼玉県飯能市平松三七六 電話〇四二(九七三)五七二六